

漁業者参加型漁場監視体制整備事業

小野寺陽子*・工藤 敏博

目 的

漁業者自らが積極的に監視活動を行うことにより、漁場保全及び監視に対する意識の向上を図る。

材料および方法

- 1 実施方法 漁業者がエクマンバージ採泥器で採取した底泥を分析した。
- 2 調査地点 青森、野辺地、むつ、脇野沢
- 3 分析項目及び方法
 - COD アルカリ性過マンガン酸カリウム-ヨウ素滴定法（新編水質汚濁調査指針）
 - TS 検知管法
 - IL 550℃6時間強熱
 - 含泥率 湿式篩別法

結 果

分析結果は、表1のとおりであった。

表1 底泥分析結果

調査地点	採取年月日	水深 (m)	泥温 (℃)	COD (mg/g 乾泥)	TS (mg/g 乾泥)	IL (%)	含泥率 (%)
青森（油川沖）	H19.12.13	27.0	-	9.8	0.0	3.6	66.9
野辺地	H19.11.10	33.0	14.2	5.8	0.0	3.3	13.0
むつ	H19.8.20	16.8	18.7	26.4	0.3	10.2	50.7
脇野沢	H19.9.11	40.0	18.7	30.2	0.3	9.6	55.3

今年度の結果は、むつ、脇野沢地点で、CODが水産用水基準（2005年版）の20mg/g乾泥を超えていたがその他の項目については基準値以内であった。

*現ふるさと食品研究センター